

## 子育ての難しさ エペソ 6 章 4 節

JD 牧師

今日の「エペソ人への手紙」の学びは、6 章 4 節の 1 節のみです。可能な方は、ご起立ください。私が読むのについてきてください。ご無理な方は、そのまま結構です。使徒パウロは、聖霊によってエペソの教会へ手紙を書いています。

### —エペソ 6:4—

**父たちよ。自分の子どもたちを怒らせてはいけません。むしろ、主の教育と訓戒によって育てなさい。**

では、一緒に祈りましょう。御言葉で共に過ごす時間を、神に祝福下さるようお願いしましょう。

愛する天のお父様。あなたが私たちの天におられる完璧な御父であられる事を感謝します。

この時、あなたが必要です。あなただけが出来になられるとおりに、またいつもして下さるように、私たちの心を静め、聖霊によって、私たちがあなたに全集中できるようお願いします。主よ、そうなさる時、私たちの人生に、あなたが語ってくださいますか？ 主よ、感謝します。イエスの御名によって、アーメン。どうぞ、お座りください。ありがとうございます。

今日は「子育ての難しさ」についてお話ししたいと思います。これは、皆さんに忍耐してほしいと、お願いせねばならない学びの一つです。最善を尽くし、神の御言葉を正しく見分け、この大きな節を紐解いていきます。そうこれは、大きな節です。ですから今日、この 1 節だけを取り上げます。取り組む前に、まずとても重要なことをお伝えする責務があると思います。今日、私が聖霊の導きで話すことをあなたが何も聞かなかつたとしても、これを聞いてほしいと思います。私たち自身が、自分の力や裁量や能力で良い子育て、神の御心に適う子育てをする事は、全く不可能です。ですから、今日の私の説教、教えは、子育ての裁量を広げるものではなく、そうではなく、私たちが神の御言葉の知恵へと向け、今日のこの節に、そのことがあります。私は、決して子育て分野の専門家として構えているわけではないことをご理解いただければと思います。私は、たくさんの間違いをしました。はい。まず何よりも、私と妻は不十分だと認め、未だに、その「子育て」と呼ぶ旅路を続けています。しかし私たちが学んでいる事の一つは、子育てでの成功とは、唯一、神が恵みと憐みを広げて下さる事で、私たちにだけでなく、間違いなく、子どもたちに対しては尚更です。その意味は、個人的に妻と私は、親として、自分たちの失敗のツケを払う事なく、むしろ、私たちが忠実でなかった時でも、神が、忠実でいてくださった事です。おお、子育てをやり直し出来るなら、どんなに良いだろうと思いますよ。子育ては、戻ってやり直しの利くものではないでしょうけど。今日の箇所に入る際に、この 4 節でパウロは何を語っているのかの説明と、その適応性を示す事は重要です。その説明とは、パウロはなぜ、「父たちは、子どもを怒らせてはいけない」と言い、なぜ「父と母を」ではないのか。その答えは、2 つあります。一つは、中東の文化ではこんにち同様、父親が家庭の最終的権威です。それが、子どもに対する権威主義的な厳しさにも通じます。確かにそれが、私の父に、幼少期の私が経験した事でした。父は、私にとっても厳しく、私にきつく、私との繋がりがなく、今日の箇所でパウロが語るような事が多く起こりました。パウロが父親に対して語る 2 つ目の理由は、母親は、養い育てる事がより自然で、このように子どもたちを怒らせるような事は少ないからです。この御言葉の裏にある「事柄」は、この後すぐにお話ししますが、主のご方法、主への恐れ、主の訓戒で、子どもたちを養い育て、訓戒、躾ける事です。母親は子どもたちを怒らせない、父親は子どもたちを養い育てない、と言っているのではありません。父親と母親の両方への適応として、「エペソ 6:4」の勧めを捉えないのは、間違いだと私は思います。私は、安心して「両親は、子どもたちを怒らせてはいけない」

と読んで良いと思います。もう一つ、説明のため答えておかねばならない質問は、この節の翻訳と関係があり、特に、この「exasperating/怒らせる」という単語に関してで、翻訳によって「provoking/刺激する」と表現されているものもあります。ほとんどの翻訳では、「父たち、両親たちよ。子どもたちを provoke/刺激してはいけません。」です。この単語には「子どもを怒らせるような対応の仕方」という意味が伴います。私は「exasperate/苛立たせる」という翻訳の方が好きです。なぜならその方が、特に父親に傾向が強い子どもたちを苛立たせ、挫折させ、憤慨させる事を説明しているからです。それが、パウロがここで語る事です。私たちがこれをすると、どうなるのか。それは、子どもたちが苦々しくなり、私たち親を恨むのも、時間の問題です。興味深いことに、パウロは「コロサイ人の手紙」で、夫と妻について、「エペソ6章」の「夫たち、妻を愛しなさい。妻たち、夫を敬いなさい。」を反復していて、またパウロは、子育てについての「エペソ6章」を反復しています。でも、コロサイの教会へは、少し違う事を語ります。

### ーコロサイ 3:21ー

**父たちよ、子どもたちを”苛立たせては”いけません。その子たちが意欲を失わないようにするためです。** 私たちは自分に正直になれば、非現実的な、あるいは不可能な期待を子どもたちにかけて、苦々しくさせると、認めねばならないと思います。皆さん、同意しますか？ きっと私たちの意図は良いかもしれませんが、正しい事を間違った方法でしてしまっているのだと思います。それはしばしば親が、興味本位で子どもの人生を生きようとする為です。明らかに、ここに深刻な問題があります。その最たるものは、私たちが、子どもたちは失敗すると決めつけている事。なぜなら、私たちの方法は、神が子どもたちを設計されたご方法とは違うからです。あるコメンテーターの説明が好きです。

「賢い父親とは、自分の子どもを型にはめるのではなく、子どもたちの内にあるものを展開することを理解している。言い換えると、あなたには父親として、神が子どもたちをどのように造られたかを注意深く観察する特権があり、そして神が、受胎の瞬間から子どもに組み込まれたものをすべて神のご栄光のため展開するのだ。」

興味深いのは、子どもが一人以上いる人はご存知でしょうけど、それぞれ違うのが興味深くないですか？ 本当にマジで、私の長男なんて、、、彼らには、「活発警報」という用語があります。私はその用語が好きじゃありません。なぜなら「活発警報」とは、「あなたはもう眠れない」です。子どもがそのように設計されているからです。そして、ほぼ2年後、次男のリーバイが生まれた時、彼は、彼の気性は、長男とは全く逆です。覚えているのですが、彼は出産時に笑ったのです。私はとても唾然として、引いてしまい、実際に私は妻に言いました。「この子は何かおかしいんじゃないか？」彼は、何とも幸せな、のん気な、おとなしい、愛らしい子でした。実際私たちは、彼の事を”愛らしいリーバイ君”と呼びました。私たちがそう呼ぶのを嫌がりますが。もう18歳になりますから。でも、私たちは未だに、彼の友達の前でそう呼びます。そうする事が大好きで。しかし、長男とは全く違い、長男はとても感情的で、集中する子です。彼がどこからその性格を受け継いだのか分かりませんが、一(笑)ー

彼はとても感情的で、とても活動的で、彼は9か月で歩いたんですよ。これに関する色々な本があって、「もし、子どもが9か月で歩くなら、ほ〜良く見張っていなさい。」と書いています。ええ、私が言いたいのは、神が私たちに与えて下さった子どもたちは、それぞれ全く違って造られている事。ですから「箴言」の御言葉、敢えて言うと、有名な「箴言22章6節」です。ご存知ですね。

### ー箴言 22:6ー

**若者をその行く道にふさわしく教育せよ。そうすれば、年老いても、それから離れない。**

あいにく、この箴言の箇所は、最も誤解釈されている一つで、聖書教師の間で議論を生じさせます。私は、いろいろな種類の教えを聞いて来ました。私は特に、この箴言についてあらゆる本を読んで来ました。これには、議論されている点が2つあります。

その1つ目は「子どもが行くべき道」の意味に関するもの。

2つ目は、「子どもが年老いた時、子どもがそれから離れない。」というのはどういう意味かというもの。この箴言の正しい解釈は、私たちは、主の訓戒に従って、彼らとその性質に応じて育てねばならない、いう事だと言わせて頂きます。原語では、大変興味深い事に、赤ちゃん誕生時に、助産婦がする事、生まれてくる新生児の気道を確保する意味を含みます。この事を、この節を理解するため、この聖書箇所に重ね合わせると、こんな風に分かります。私たちは、それぞれの子どもたちの性質に合わせて、彼らを育てる方法を作り出さねばなりません。あの子と、この子では、違います。そしてその約束とは、、、ここでまた、私たちは、この「箴言」に、いくつかの問題にぶつかりますけど、その約束とは、私たちがそうするなら、子どもたちが成長し、歳を取った時に、彼らとその道、主の道を歩み続けるという事。それが、この「箴言」が語る約束です。そのため、要約聖書では、箴言 22 章 6 節をこのように親しみを込めて表現します。「子どもを、その行くべき道と、個々の才能や潜在能力に合わせて育てなさい。そうすれば、年をとってもそこから離れることはない。」

それが約束です。さっと加えて言いますが、この箴言は、私たちがただ彼らの特有な好みの事を、何でもやらせるという意味でなく、それよりも、私たちが彼らを訓練し、彼らを弟子とするという事です。

この「disciple/弟子」という単語を使うのは、この単語は「discipline/訓練する、鍛錬する」という単語から由来します。因みに「ヘブル人への手紙 12 章」5～11 節に同じ単語があります。ここでは「discipline/正しく訓練する」の意味の「chastenig/懲らしめる」と訳されています。私たちは、主のご方法で彼らを正し、導き、訓練し、弟子とするため、弟子訓練をするべきなのです。そして私たちは、子どもの性質に合わせて、訓練の方法を個別化すべきなのです。主のご方法で、子どもたちを正し、導く事は、一人の子で上手くいった事が、他の子には上手くいかないというように、それぞれの子どもでも違ってきます。私が、当初に学んだことは、今でも学びの途中ですが、大変興味深いのは、子どもたちには、それぞれ違った学習スタイルがあるという事です。この為、こどもの何人かは、普通のクラスの環境の中で、上手くやっけていけないのです。彼らは運動感覚で学ぶので、いつも動いていないといけません。そして、ある子は戦術的に学ぶので、触れる事で学びます。また、視覚的に学ぶ子もいます。つまり言いたいのは、皆さん、子どもの内にある性質は何か、能力は何かを見極め、知り、発見せねばならないのです。それをしないと、あなたを苛立たせるだけではなく、皆さんが、全く設計されていない方法で、彼らを訓練すれば、最後には、子どもにも苛立たせることになります。私が覚えているのが、長男が幼い頃、AWANA（聖書教育プログラム）にいて、本土で私が初めて牧会を始めた教会で、AWANA 憲章がありました。なので、AWANA に息子を連れて行く時は、聖句を暗唱しないとイケないのです。一週間かけて練習をします。私は、やろうとして彼にこう言います。「さあ、座って、この聖句を覚えよう。」すると彼はこんな感じで私を見て、「座らないといけないって言った？」と。「そうだよ。静かに座って、この聖句を全部覚えるんだよ。」彼はこう考えます。「つまり、僕は動いてはいけないの？」「うん。座って、この聖句を覚えよう。」皆さん、息子はこんな方法で聖句を覚えた事は一度もありません。息子がこの方法で聖句を覚えた事がない理由を知りたいですか？ なぜなら、息子は、そのように造られていないからです。親として私たちがより先に、この点を、乗り越えてくださった方たちを、またこの事についての本を、神に感謝します。

息子は座って学ぶようなタイプではなく、学ぶ時には、トランポリンで飛び跳ねて、庭を走り回らなければならぬ子だと分かりました。そうすれば、息子は、与えた聖句を、全て覚えます。私たちはそうさせて、彼は覚えたのです。息子を、あちこち走り回らせて、聖句を覚えさせます。家族のデボーションの時です。この辺り、家族でのデボーションで、私たちが落胆するところだと思います。子どもたちが幼い時、家族でデボーションし、1人は思います。

「こんなところで座ってられない。活発に、動き回りたい。」

そしてもう1人は言います。「ウロウロしながらなんて、覚えられないよ。冗談でしょ？じっと静かに座らないといけないのに、どうすればいいの？」

私たちは、かなりクリエイティブにならないといけません。神はその為の恵みを与えて下さいます。しかし子どもたちは、それぞれ特有の性質を持って、私たちに与えられます。私たちには3人の子どもがいますが、娘は今11歳です。子どもたちそれぞれの違いだけでなく、男と女の違いもあります。私たちは今でも学んでいる途中で、どうか祈って下さい。男の子を育ててきたすべてのメモを捨てなければならず、今は、完全に違う物語が必要な娘がいます。この教えを締めくくする必要がありますが、もう少しお付き合いください。最善を尽くします。聖句の「instead/その代わりに」という単語を指摘しなければ、大失態だと思いますので、この「その代わり/むしろ」という単語を、皆さんに注目してもらいたいと思います。私にとって、この単語は、説明を提供するだけでなく、応用することも教えてくれます。その意味を説明します。私たちを満足させるため、子どもたちにプレッシャーをかけたり、強いる“代わりに”、私たちは、主を喜ばすため、彼らを訓練し、指導するべきです。悲しい事に、たくさんの親は、子どもたちに厳しく完璧を求めます。それは彼らに不適切な感情を残すだけで、最終的に、とても苦々しく、怒りの感情を残します。その理由は、その子どもは、自分の行動を基に、自分が受け入れられているかどうかを判断するからです。言い換えると、そのような子は、愛されていると感じず、その“代わりに”、失望します。なぜなら彼らは、決して十分に良くないからです。ところで、子どもたちは、私たち親を喜ばせたいのですよ。でしょ？ここで私たちは、彼らに、私たちの言わば太鼓に合わせて踊ることを求めますが、その事で、私たちは大間違いをします。それによって、多くの場合、神が願っておられる事、彼らが主の喜びとなる事が、犠牲になるからです。何人の子どもたちが親に「自分には、決してできなかった。」「十分な良い子にはなれなかった。」と言うのでしょうか？90点を取ったら「なぜ100点ではないの？」80点を取ったら「なぜ90点ではないの？」という風に。これは決して良いことではありません。ここに、彼らをお造りになった神を喜ばせたい子どもがいます。彼らは私たち両親からの、愛情、注目、感嘆、肯定が必要です。彼らは肯定される事が必要で、否定的な強化よりも、肯定的な強化の方が入っていきます。子どもたちは、肯定的な指導や矯正には、より好意的に応えます。その逆よりも。私たちは、子どもたちを叩きのめし、彼らに辛くあたります。再度言いますが、私たちは良かれと思って、正しいことをしているのかも知れませんが、たぶん、それを間違った方法でしています。私たちは、子どもに、高い目標を達成させたいから。でしょ？私が大胆に言うのを許してください。私たちはもしかしたら、成功の定義をもう一度見直す必要があるかもしれません。子どもたちにとって、何がゴールなのか。つまり、あなたは子どもたちに、人生で成功してほしいですか？高給取りのキャリアを持って、一流の役職に就くようになって欲しい？これらは何も悪い事ではありません。しかし、皆さんに聞きたいのですが、特に、大学に行きだした息子がいる私にも自分自身に投げかける質問です。

「私の成功の定義とは何か？」

何が成功の定義かという、それは、彼らが主と共に歩む事です。彼らは主と共に歩んでいますか？

これが成功です。これが成功です。「私は、子どもに高い期待があります！ 彼らは医者や、弁護士になるのです！！」

私は、どうして人々は弁護士になりたがるのかが分かりませんが、弁護士の皆さん、私たちはあなたを愛していますし、神はあなたを愛し、祝福しておられますよ。聞いてください。私がこう言えるのは、私がカーディーラーだからです。皆さん笑ってもいいですよ。随分前のことですが、本土にいた頃、ミニストリーに携わらずと前の話です。その人は私のところに来て言ったのです。

「カーディーラーが同時にクリスチャンなんてあり得ないだろう？」

ええ、ですから、弁護士にも言えるのですよ。たぶん皆さん、子どもたちに、「こうなって欲しい！」という期待があるかもしれません。しかしそれは究極的に、彼らがイエス・キリストの救いに辿り着くという少なくとも神が定義された子育ての成功ではありません。私たちはもう一度よく見直し、自分自身を吟味するべきだと思います。私たちは、子育てにおいて、家畜を追い立てる牧場主なのか、群れを導く牧者なのかを。私たちは子どもたちを無理に押し進め、怒らせ、刺激し、苛立たせていないかを。それとも私たちは主のご方法で彼らを導いているのか。彼らの特有な性質を発見し、見極め、主のご方法に従って彼らを訓練する。皆さん、こんな風に見ておられますね。

「OK。牧師さん。全部すばらしいですけど、私の子どもはすでに大人になっていて、船は出てしまいました。」では、私もそれに気づき、理解し、尊重し、私も同じ気持ちです。なぜなら、彼らは既に自分の人生を歩んでいて皆さん既に彼らを送り出して、もう手遅れだと感じられます。もしかしたら、数えきれない感情があって、その結果、落ち込み、失望し、そしてデカいのは、罪悪感。しかし、自分が大失敗したと思っているから、その罪悪感が離れないのです。私は皆さんを励ましたいと思います。決して遅すぎることはないからです。遅すぎることはありません。神はご忠実であります。子どもが何歳であろうと、決して遅すぎる事はありません。決して、絶対に、絶対に、絶対に、彼らのことをあきらめないで下さい。たとえ彼らが、あなたから離れ、主から離れている典型的な放蕩息子でも。私の個人的な経験から、これを分かち合い、このメッセージの締めに入ります。

我儘息子や我儘娘に関して言うと、親の祈りの力に勝るものはありません。決まり文句に聞こえるかもしれませんが「祈りには力があるのです！」違う違う、違います。今日私は、自分の子どもの為に祈る親として、皆さんの前に立っています。そして、親の祈りの力の証人として皆さんの前に立っています。祈りと断食、あの我儘息子、あの我儘娘は、親の祈りの力には勝てません。もう一つ。私は怒っていませんからね。「エペソ人への手紙6章4節」は、『牧師たち。会衆を怒らせてはいけません。』と書かれるべきだと皆さんは思っているかも知れませんが。もし私がそれをしていたら、お許しください。これを誇張できるかどうか分かりませんが、私の父親としての個人的な経験から分かち合います。何よりもまず。なぜこう言うかという、私は、牧師である前に、第一に父親です。皆さんが理解しておられるのを願います。以前にもお話ししましたが、もう一度この教えの中で話す必要があるのかもしれませんが。この教会は、他の牧師を見つけられますが、私の子どもは、他の私を見つられません。私たちは、子どもの為に祈ると共に、無条件の愛で愛さないといけません。再度、本当に誇張できるかどうか分かりませんが、私が学んでいる事の一つは、「私は何があっても、我が子を愛する必要があります。」皆さんが、これをご存知かどうか分かりませんが、私たちは世界中のオンライン教会の人々から、祈りのリクエストを受けとります。かなり心が痛みます。なぜなら、よくあるのが、子どものための祈りを懇願する親です。

彼らの娘や息子が、ついこの間、同性愛だと告白し、その人生へと進もうとしている、もしくは既にその人生を生きていると。これに対してどう答えますか？ どう答えられるのでしょうか？ 本当に。

スクリーンに、聖書の箇所を出します。皆さん、書き留めるか、自分の聖書を開くことを、本当に切にお勧めします。「ローマ人への手紙 2 章 4 節の後半」です。これは私の人生で、私の子育てにおいて、力強い方法で神が用いられた御言葉です。使徒パウロが語ります。

「神のいつくしみ深さがあなたを悔い改めに導く。」

神の優しさ、神の恵み、神の愛が、人を悔い改めへと導くのです。それはあなたが子どもに、無条件の愛を伝える時、「あなたを本当に、何よりも愛している。私たちはこの事を乗り越え、私はあなたに、決して扉を閉ざさない。私はあなたを決して見捨てず、いつも、あなたの為にここにいる。私はいつもあなたを愛している。」彼らを愛するというのは、彼らの罪の行いも受け入れるのと同義ではありません。これが、親たちがつまずくところだと思います。確かに「厳しい愛」というものがあります。しかし時にそれは、「愛」ではなく「厳しさ」が強調されているように思います。子どもへのあなたの心からの愛で、子どもの心を溶かすのです。神は子どもをそのように造られました。彼らを愛し、彼らの為に祈る。こんな風に締めくくりたいと思います。これは、明らかに当たり前の事に聞こえると思いますが、皆さんに言いたいのは、あなたが子どもの為に熱心に祈り、無条件に愛するなら、あなたは、彼らの人生に、主の良さと、神の恵みを見ます。祈りましょう。

天のお父様。あなたの御言葉を感謝します。今日は難しい内容でしたが、良い学びでした。主よ。特に、ここに居る人、オンラインで観ている人で、心が折れている親たちの為に祈ります。彼らはとても打ちのめされていて、失望しています。主よ、私は祈ります。あなただけが御出来になるご方法で、彼らを力づけ、励まし、親として私たちを祝福下さいますように。あなたが私たちに与えられた子どもたちと共に素晴らしい特権が私たちのものなのです。主よ、感謝します。イエスの御名によって、アーメン。

-----  
メッセージ by JD Farag 牧師カルバリーチャペルカネオヘ

<http://www.calvarychapelkaneohe.com/>

Calvary Chapel Kaneohe 47-525 Kamehameha Hwy. Kaneohe, Hawaii

筆記 hukuinn7